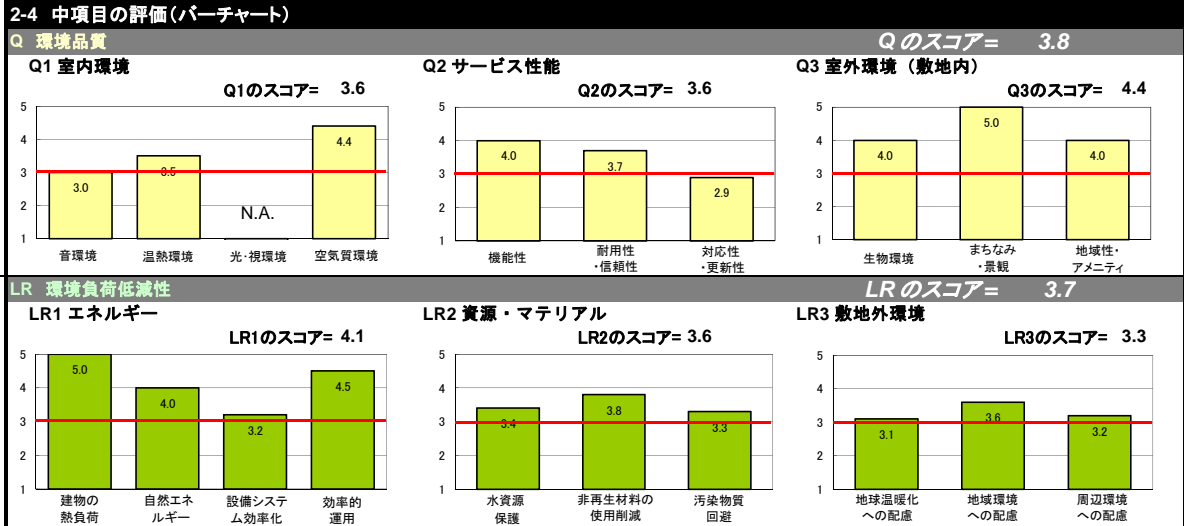
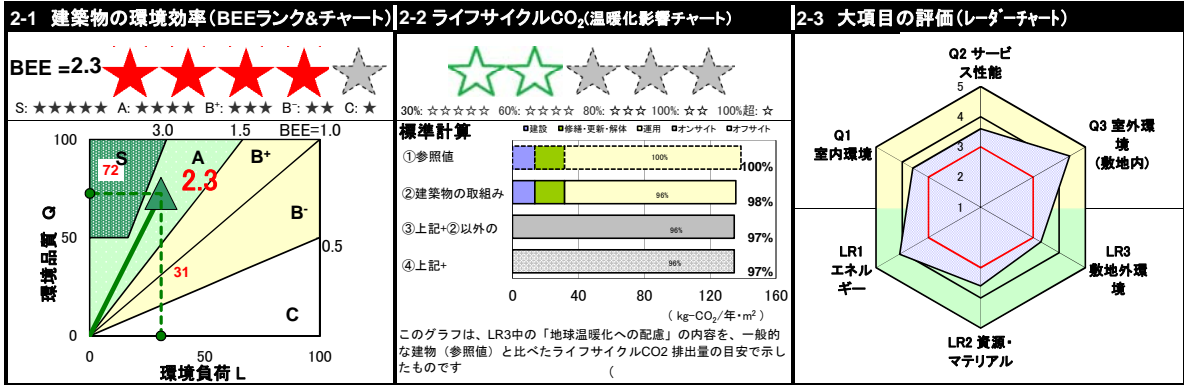


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	岡崎市火葬場整備運営事業 火葬場	階数	地上2階
建設地	岡崎市(才栗町)	構造	RC造
用途地域	市街化調整区域、法22条区域	平均居住人員	一人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	2,576 時間/年
建物用途	集会所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2016年10月 予定	評価の実施日	2015年1月23日
敷地面積	21,235.26 m ²	作成者	水野勝弘
建築面積	3,108.43 m ²	確認日	2015年1月23日
延床面積	5,097.85 m ²	確認者	松村敏明, 古畑進



3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.1</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.0</p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">92.5 %</p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p style="text-align: center; font-size: 1.5em;">0.0 %</p>
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.5</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">5.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>地場産木材</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>花崗岩, 三州瓦再生平板ブロック</p>

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用

Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積 (建築面積及び附属物面積)}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積 (法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	県独自基準	重点項目	評価点		重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質									3.8
Q1 室内環境									3.6
1 音環境									3.0
1.1 騒音									
1 室内騒音レベル									
2 設備騒音対策									
1.2 遮音									
1 開口部遮音性能									
2 界壁遮音性能									
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)									
4 界床遮音性能(重量衝撃源)									
1.3 吸音									
2 温熱環境									3.5
2.1 室温制御									
1 室温									
2 負荷変動・追従制御性									
3 外皮性能									
4 ゾーン別制御性									
5 温度・湿度制御									
6 個別制御									
7 時間外空調に対する配慮									
8 監視システム									
2.2 湿度制御									
2.3 空調方式									
3 光・視環境									
3.1 昼光利用									
1 昼光率									
2 方位別開口									
3 昼光利用設備									
3.2 グレア対策									
1 照明器具のグレア									
2 昼光制御									
3 映り込み対策									
3.3 照度									
3.4 照明制御									
4 空気環境									4.4
4.1 発生源対策									
1 化学汚染物質									
2 アスベスト対策									
3 ダニ・カビ等									
4 レジオネラ対策									
4.2 換気									
1 換気量									
2 自然換気性能									
3 取り入れ外気への配慮									
4 給気計画									
4.3 運用管理									
1 CO ₂ の監視									
2 喫煙の制御									
Q2 サービス性能									3.6
1 機能性									4.0
1.1 機能性・使いやすさ									
1 広さ・収納性									
2 高度情報通信設備対応									
3 バリアフリー計画									
1.2 心理性・快適性									
1 広さ感・景観									
2 リフレッシュスペース									
3 内装計画									
1.3 維持管理									
1 維持管理に配慮した設計									
2 維持管理用機能の確保									
3 衛生管理業務									
2 耐用性・信頼性									3.7
2.1 耐震・免震									
1 耐震性									
2 免震・制振性能									
2.2 部品・部材の耐用年数									
1 躯体材料の耐用年数									
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔									
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔									
4 空調換気ダクトの更新必要間隔									
5 空調・給排水配管の更新必要間隔									
6 主要設備機器の更新必要間隔									

開口部には庇やルーバーを設置
室ごとに空調機系統を分割し、冷暖房切替を可能としている

F☆☆☆☆を使用

外気の取り入れガラリは、排気ガラリから6m以上の離隔を確保

空気質について定期的な検査を行う
喫煙所を設置

インテリアパースによる事前検証を実施

耐久性、更新性・リサイクル性の高い素材を選定
清掃員控室を設置、メンテナンス用バルコニーを設置

重要度係数=1.25を考慮した

② 石材、タイル、金属屋根、アスファルト防水など高耐久材料を選定
石材・タイル・木材など、耐久性が高い素材を中心に選定

2.4 信頼性				4.4	0.19			
1 空調・換気設備		②	重要室は非常電源系統とし、換気量制御を一部行っている	5.0	0.20			
2 給排水・衛生設備			節水器具の採用及び左右に配管系統の区分を行っている	5.0	0.20			
3 電気設備			発電機を設置している	4.0	0.20			
4 機械・配管支持方法			設計用標準水平震度を特定の施設レベルとしている	4.0	0.20			
5 通信・情報設備			光、メタルケーブルやPHSなど通信手段を多様化している	4.0	0.20			
3 対応性・更新性				2.9	0.29			2.9
3.1 空間のゆとり				2.0	0.31			
1 階高のゆとり				-	-	3.0		
2 空間の形状・自由さ				2.0	1.00	3.0		
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.31	3.6		
3.3 設備の更新性				3.6	0.38			
1 空調配管の更新性		②		3.0	0.17			
2 給排水管の更新性				3.0	0.17			
3 電気配線の更新性			ケーブルラック・配管配線施工により更新可能である	5.0	0.11			
4 通信配線の更新性				3.0	0.11			
5 設備機器の更新性			個別空調を採用し、更新時の機能維持を図っている	5.0	0.22			
6 バックアップスペース				3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30			4.4
1 生物環境の保全と創出	●	③	敷地内に在る地域森林計画対象民有林の保存	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮	●	④	緩衝緑地を設け、周囲の自然との一体感へ配慮	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.0	0.30			4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	●	④	外構に地域性のある材料を使用	4.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上			敷地内に在る地域森林計画対象民有林の保存	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-			3.7
LR1 エネルギー				-	0.40			4.1
1 建築物の熱負荷抑制			IBPAL低減率への換算 37.8%	5.0	0.30			5.0
2 自然エネルギー利用				4.0	0.20			4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			トップライト・ハイサイドライト設け、クールレンヂを採用	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用			太陽光発電を採用	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化			ERR換算値 7%	3.2	0.30			3.2
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				3.2				
集合住宅の評価				3.0				
4 効率的運用				4.5	0.20			4.5
4.1 モニタリング			各種データを蓄積、データの見える化を図る	4.0	0.50			
4.2 運用管理体制			運営開始からの年度ごとに合わせたエネルギー使用量の目標設	5.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル				-	0.30			3.6
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水			節水器具及び擬音装置を設置している	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.8	0.63			3.8
2.1 材料使用量の削減				2.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用		②		3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	●		外構舗装:三州瓦再生平板ブロック、再生骨材の路盤材、金属屋	5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組	●		躯体と仕上げが容易に分離可能。設備の更新性に配慮	5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.3	0.22			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆を使用	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				2.5	0.68			
1 消火剤				-	-			
2 発泡剤(断熱材等)				2.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
LR3 敷地外環境				-	0.30			3.3
1 地球温暖化への配慮		①	ライフサイクルCO2概算値134.62kg-CO2/年m2 排出率97%	3.1	0.33			3.1
2 地域環境への配慮				3.6	0.33			3.6
2.1 大気汚染防止				3.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			敷地内に在る地域森林計画対象民有林の保存	4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減	●			3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制	●		BOD 10mg/l、COD 20mg/lの水質にて放流	4.0	0.25			
3 交通負荷抑制	●		駐車場、マイクロバス駐車場の整備	5.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制				2.0	0.25			
3 周辺環境への配慮				3.2	0.33			3.2
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	●			3.0	0.33			
2 振動	●			3.0	0.33			
3 悪臭				3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制				3.0	0.70			
2 砂塵の抑制				3.0	-			
3 日照障害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				4.4	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			公告物照明を設置しない	5.0	0.70			
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30			

重点項目スコアシート

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEEあいち評価マニュアル2011年度

岡崎市火葬場整備運営事業 火葬場建設工事

■評価ソフト:

CASBEE-NCb_2011 (bpi&bei) v.1.7_aichi

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.1
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.1	0.10	
② 資源の有効活用				3.5
Q2-2	耐震性・信頼性	3.7	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	2.9	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	3.8	0.19	
③ 敷地内の緑化				4.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	4.0	0.09	
④ 地域材の活用				5.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	2.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	2.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	<p>注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。</p> <p>景観を活かし、アプローチ・谷側からの建物の表情に配慮し地域慣習をふまえた計画。維持管理、施設・設備更新に係る長期休止が難しい火葬場特有の課題に対し、「将来に渡り使い続けられる」配慮。</p> <p>各種省エネ設備機器の導入や維持管理のしやすい仕様とすることにより環境へ配慮。</p>
Q1 室内環境	<p>注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>室内環境に配慮し、日射抑制のため開口部には庇やルーバーを設置。室ごとに空調機系統を分割し、冷暖房切替を可能としている。</p> <p>外気の取り入れガラリは、排気ガラリから6m以上の離隔を確保。</p> <p>空気質について定期的な検査を行う。喫煙所を設け分煙としている。</p>
Q2 サービス性能	<p>注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>内外装材に耐久性、更新性・リサイクル性の高い素材を選定。</p> <p>ケーブルラック・配管配線施工により更新可能である。</p> <p>個別空調を採用し、更新時の機能維持を図っている。</p> <p>耐震性に対し重要度係数I=1.25を考慮している。重要室は非常電源系統している。</p> <p>節水器具の採用及び左右に配管系統の区分を行っている。発電機を設置している。</p>
Q3 室外環境(敷地内)	<p>注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地内に有る地域森林計画対象民有林の保存。</p> <p>緩衝緑地を設け、周囲の自然との一体感へ配慮。</p> <p>外構に地域性のある材料を使用。</p>
LR1 エネルギー	<p>注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>自然エネルギーの直接利用に配慮し、トップライト、ハイサイドライト、クールトレンチを採用。</p> <p>自然エネルギーの変換利用に配慮し、太陽光発電を採用。</p> <p>各種データを蓄積、データの見える化を図る。</p> <p>運営開始からの年度に合わせたエネルギー使用量の目標設定。</p>
LR2 資源・マテリアル	<p>注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>節水に配慮し、節水器具及び擬音装置を設置。</p> <p>リサイクル材の使用、外構舗装:三州瓦再生平板ブロック、再生骨材の路盤材、金属屋根下地:木毛セメント板。</p> <p>躯体と仕上げが容易に分離可能なものを多く選定。設備の更新性に配慮している。</p>
LR3 敷地外環境	<p>注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。</p> <p>敷地内に有る地域森林計画対象民有林の保存。</p> <p>BOD 10mmg/l, COD 20mmg/l の水質にて放流。</p> <p>駐車場、マイクロバス駐車場の整備。</p> <p>公告物照明を設置しない。</p>
その他	<p>注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。</p>